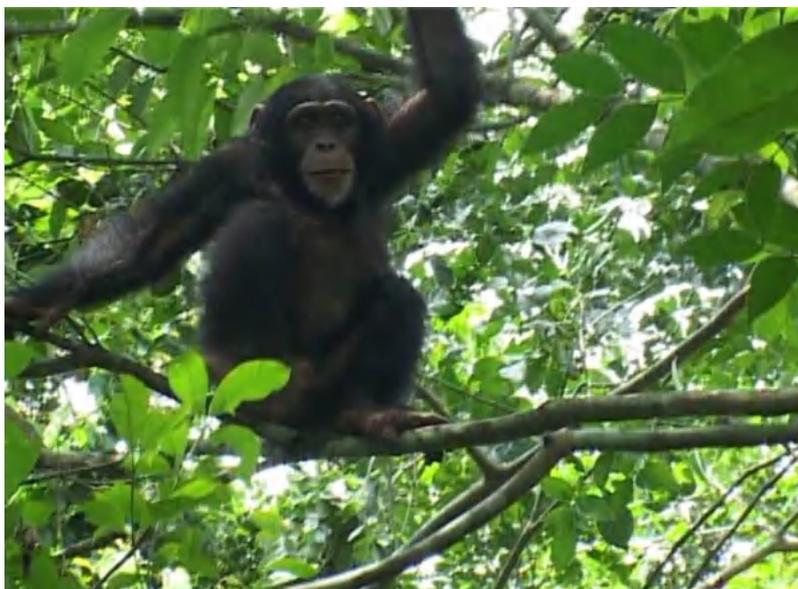


ギニア共和国の観光資源：ニンバ山（世界遺産） 花嫁のベールの滝

平成21年5月
在ギニア日本国大使館

ニンバ山

ニンバ山はギニア共和国東部に位置し、コートジボワール及びリベリアにまたがり、標高は西アフリカで最も高い1752m、サバンナ気候下で豊富な生態系に恵まれています。山腹は深い森に覆われ、山頂の放牧地の植物は植民地時代の生態学者の動植物相研究の注目を浴びました。ニンバ山は1981年にユネスコの世界自然遺産に登録されました。豊富な鉄鉱石含有で知られ、リベリア側では鉱物企業の採掘による自然破壊が問題となっていますが、ギニア側では豊富な自然生態系が維持されています。ボツソウのチンパンジーや、世界で唯一胎生のヒキガエルが生息する地としても知られています。日本との関わりとしては、京都大学霊長類研究所が30年以上にわたり、チンパンジーの共同研究を行っています。なお、当該地域は外務省海外安全ホームページに掲載されている渡航情報（危険情報）において渡航延期勧告の対象地であるため、渡航はお勧めできません。



ニンバ山は世界中のチンパンジー研究者から注目を浴びている。

花嫁のベールの滝

花嫁のベールの滝は首都コナクリから東に約150 Kmに位置し、滝のある公園内は樹木が鬱蒼と茂っており、この中に遊歩道が敷かれ、散歩も楽しめる静かな場所となっています。園内には宿泊施設もあり、首都から車で約3時間とアクセスも良いため、週末を大自然の中で過ごす外国人客でにぎわっています。「花嫁のベール」の名は、約60 mにわたって落下する滝の水しぶきが、花嫁衣装のベールのように美しいことに由来します。滝から流れ出る水は綺麗な小川となって園内を流れており、その小川に沿って壮大な竹林も見ることができます。なお、当該地域は外務省海外安全ホームページに掲載されている渡航情報において渡航是非検討の危険情報が発出されているように治安が不安定な地域であるため、観光目的での渡航はお勧めできません。



繊細な水しぶきが花嫁衣装のベールのように美しい。

[渡航情報](#)